

アレルギー大学 基礎講座・ベーシックプログラムを修了された皆様へ

平成30年11月25日(日) 第13期アレルギー大学 研究実践講座

記念講演・研究実践報告のご案内

11月25日(日)に第13期アレルギー大学「記念講演・研究実践報告」が開催されます。

アレルギー大学「基礎」または「ベーシックプログラム」を修了された皆様は受講していただくことが可能です。
この講座は、最新情報が満載となっており、受講生が継続してスキルアップをはかるためには重要な講座となっております。

「記念講演・研究実践報告」ならではの情報が満載となっておりますので、興味がある方は、是非お申し込みください!

【記念講演・研究実践報告(申込番号:13005)】

開催日:11月25日(日) 9:30~16:30(予定) ※受付9:15開始予定

会場:名古屋工業大学 4号館大ホール

資料代:一般5,000円 学生2,000円

【お申し込み方法】

①アレルギー支援ネットワーク HP より「アレルギー大学」

⇒「アレルギー大学のお申し込み」

⇒「アレルギー大学お申し込みフォーム」をクリック

もしくは、右のQRコードから「アレルギー大学お申し込みフォーム」へ



<http://alle-net.com/alledai/alledai-flow01/alledai-application01>

②「アレルギー大学お申し込みフォーム」に必要事項をご記入して送信してください。

折り返し、「お申し込み受付メール」が自動配信されます。

③担当より「お申込受付確認票」が添付ファイルにて届きます。

※お申し込み後から10日経ってもメールが届かない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

④届きました「お申込受付確認票」の内容をご確認の上、お間違いなければ資料代を指定の口座にお振込みいただきましたら受付完了です。

※お振込期限は「お申込受付確認票」が届いてから10日以内です。

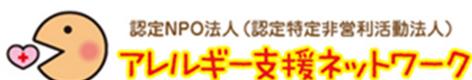
お振込みが期限を過ぎる場合は必ずご連絡ください。

連絡なく期限が過ぎた場合は、キャンセル扱いとさせていただきます。

お振込後の返金および年度繰越は致しませんのでご注意ください。

⑤受講当日は、「お申込受付確認票」および振込控えをご持参ください。

【主催/問い合わせ先】



認定NPO法人(認定特定非営利活動法人)

アレルギー支援ネットワーク

住所:名古屋市中村区大秋町2丁目45番地6

TEL:052-485-5208 FAX:03-6893-5801

受付時間:10:00~17:00(土・日・祝日は除く)

URL:<http://alle-net.com/>

「食物アレルギー 最近の話題」

講師 宇理須 厚雄 氏

うりすクリニック 名誉院長

食物アレルギーに関する最近の話題の中で下記について解説します。

- 1、園・学校での対応；保護者と園・学校職員・医師の3者間での情報共有の重要性
- 2、完全除去から安全量摂取さらに積極的安全量摂取の試み：食のQOL向上と耐性増めざした安全量摂取。
低アレルゲン化した食品や食品そのものの安全量摂取の意義と課題
- 3、経口免疫療法；より安全な方法を目指す重要性やスムーズに増量できない患者への対応。

「大人のアレルギーについて ～日常生活で知っておきたいアレルギー～」

講師 矢上 晶子 氏

藤田医科大学 ばんだね病院 総合アレルギー科

アレルギーといえば“小児の疾患”と思う方も多いと思いますが、小児期からのアレルギーが続いている方もいれば、成人してからアレルギーを発症する大人の方も少なくありません。また、高齢になってから発症する食物アレルギーの患者さんもいらっしゃいます。日常生活の中にはアレルギーの原因となる物質が多々ある一方で、知っていることで予防できるアレルギーもあります。講演では、大人の方と同時に、いずれは大人になるお子さんにとって、“知っておきたい日常生活に潜むアレルギー”についてお話しします。

「食物アレルギーを持つ子どもへの心理的支援」

講師 上原 優子 氏

大阪大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター

食物アレルギー患者は増加傾向にあり、食物アレルギーをもつ乳幼児の有病率は5～10%と推察されている。特に乳幼児期に多い原因食物である、鶏卵、牛乳、小麦は離乳食に頻りに利用される食品であり、「食べないようにする」ばかりでなく、「触れないようにする」ことも必要なため、集団保育の場での対応が必要とされる。また、乳幼児期の精神的発達として、母子の豊かな相互作用が求められるが、食物アレルギーの診断を受け、食物除去の指示がなされると、母親は子どもの誤食の予防と緊急時の対応とに追われて、緊張感に満ちた子育てのスタートとなるため、十分な母子相互作用が得られにくくなると思われる。さらに、食べられるものとそうでないものについて子どもに教えていく必要があり、どのような点に配慮していけばよいのか、またどのような声掛けをしていくのが望ましいのか等について一緒に考えていければと思っています。

記念講演の他にも、食物アレルギーマイスターの活動報告やアレルギー大学上級修了生による研究実践報告等もごさいます。